

国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査講習会 2023 研修報告

【日時】 オンデマンド講義:7月22日~8月25日
 ライブ講義: 8月26日(土) 10:15~13:00

【 オンデマンド講義(2022年度の講習会を一部編集した内容) 】 ※ 各講義 20分~90分の動画

導入(2講義)	絵カード検査(4講義)	事物検査(4講義)
検査結果と評価のまとめ(3講義)	各論(3講義)	参考動画(2本)

【 ライブ講義:講師 小寺富子 】 ※ 評価と働きかけ(40分)+質疑応答
 ○<S-S法>の言語発達検査の特徴



- ・発達レベル1歳前後~小学校就学前後まで、
 言語の記号形式-指示内容関係の段階に即した一貫した評価ができる。
 - ・ある程度、自動的に方針が立つ
 - ・症状分類により働きかけの重点が分かる(例:言語表出未獲得⇒理解後の習得)
- ☆できるところを見つけて、働きかけを考える

○症例を基に評価内容に沿って働きかけを考える

- ・(例)段階2-2 ふるい分け⇒選択行動の形成(家庭ではふるい分けに関するお手伝い)

○検査の活用...とりあえずケースに使ってみる!

[留意事項]

コミュニケーション態度:検査者・場が“検査材料”
 受信・理解課題:選択肢の数

○コミュニケーションの要件

①相手(誰と)	③役割交代(聞き手か話し手か)	⑤機能(何のために要求・報告するのか)
②話題(何について)	④記号・手段(用いる方法)	⑥状況(どんな場面・時間の流れて)

○検査課題も一種のコミュニケーション!

課題の導入	「○○しようか」→Yes-No
図形の弁別	指差された所へ移動する
受信(記号)	着席・姿勢
	視線
	「はい」と言って渡す
	「これ?」「いい?」

拒否があった場合...
 検査者がやって見せ、
 面白さを伝える